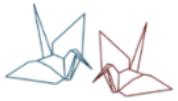


# 未来に向かって伸びる鶴嶺の子

## 鶴小だより 5月号

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校  
校長 日高 大司郎  
令和8年4月30日発行



### 親がかまんすれば・・・？！

まず、本校の目標等を紹介します。本校では、

**ミッション**（鶴小の職員の存在意義）

「未来に向かって伸びる鶴嶺の子」（を育てます）

**ビジョン**（鶴小の職員は今何をすべきか）

かしこい子・やさしい子（を育てます）

→自分を知り表現できる力の育成

→多様な考えを受容する力の育成

**プライオリティゴール**（重点目標）

「子ども主体の学校づくり」（を行います）

を設定しています。

また、その目標を達成するための方法として、

**バリュー**（鶴小の職員共通の価値観・行動指針）

・「つながり」を意識し大切にする

→教員としての基本姿勢

・「エビデンス」を明確にし、教育活動を行う

→仕事をする上での基本姿勢

・「感謝」を言葉にあらわす

→幸せのための基本姿勢

を定めています。それぞれが上位目標にしっかりつながるものになって、絵に描いた餅にならないよう目標設計ができたと感じています。

さて、今日はこの、ビジョンについてお話ししたいと思います。その前に、昔のテレビCMの内容について思い出してください。（昔過ぎて、知らない方が多いかもしれませんが・・・）

僕は、ある頭痛薬のテレビCMを見ると、いつも腹立たしく思っていました。（様々なパターンがあったのだらうと思いますが）僕が覚えているCMでは、お母さんだか、お父さんが頭痛になります。その日は、お出かけの予定があって、子どもはすごく残念がって行きたそうにしています。そこでお母さんだったか、お父さんは、頭痛薬を飲んで頭痛を鎮めて、一緒にお出かけするというようなものでした。

僕が腹立たしく感じる部分はどこだか分かりますか。それは、「頭の痛い親御さんが、薬を飲んで痛みを抑えてまでお出かけするところです。」当時の僕は、とても違和感をもちました。おかしいことだと感じました。頭が痛い＝病気ということですから。それなのに・・・行くの？！と思ったのです。

本校のビジョンに戻りましょう。かしこい子として、「自分を知り、表現できる力」の育成を挙げています。自分の気持ちや思いを他者に表現できることは、生きていく中で絶対必要です。自分の思いや願いをしっかりとち、それをメタ認知して表現できなければ、周りにいる他者に自分を理解

してもらうことはかないません。助けてもらうことすらできないのです。娘（教員をしています）が1年生を担当したとき、多くの子どもたちが、「困っているから助けて」と言えずに、しくしく泣くのだ、と話していました。また、自分の出会った子どもたちの中には、自分の気持ちを伝えられず、結果、暴力的になってしまう子ども数多くいました。

しかし、自分の思いや願いを伝えられるだけでは不十分です。人間は、社会の中で関わりをもちながら生きていくからです。自分がどんなにそうしたくても、他者にとって受け入れられないものであったなら、自分の主張を通していくわけにはいきません。そこで、やさしい子では、「多様な考えを受容できる力」の育成を謳っています。人は、そもそも多様です。僕らはよく、普通と口にしますが、みんな思っていることも、したいこともバラバラですよ。バラバラの考えだけでも、それぞれが納得できるように話し合ったり、少しずつ我慢したりすることで社会が回っていきます。

ご家庭は、社会の最小単位と呼ぶことができます。同時にそこは、社会生活の基本を学ぶところとも言えるのです。だとしたら、親御さんはいつでも、一番近いところにいる他者として関わる必要があります。子どもを大切にする、子どもを主体として考えるということは、子どもの機嫌をとって、いつも好きにさせるということでは決してありません。（親の思い通りにしていい存在ということでも決してありません。念のため。）

もう一度、CMの話に戻しましょう。その中で子どもは「約束したよ」とか「行きたい。行きたい。」と言います。でも、親御さんには病気だから行けないという正当な理由があります。一番身近な他者である親が仕方ないと無理をすることは、強く主張さえすれば自分の思いが叶うと誤学習させることとなります。世の中、自分の思いが通らないことなんてそれこそ星の数ほどありますよね。そういうことが当たり前と分かって、他者のことを考え受け止められる子。「早く治るようにゆっくり寝てね。」と言える子どもにしたいのです。

保護者の皆さんには、ありのままの「我が子」に掛け値なしの愛情を注ぐこと、外で消費したエネルギーをしっかりと充電できるご家庭を創ることの2つに心を砕いてほしいと願っています。子どもの世界だって大変なことがいっぱい。子どもたちは、親御さんからの愛情と、お家で蓄えたエネルギーを糧にして、様々な出来事や自分の思い通りにならないこと等と、毎日、毎日向き合い、よりよく生きようともがき続けているのですから。